

# 河岸防護施設の試験施工について

平成28年12月22日

静岡河川事務所

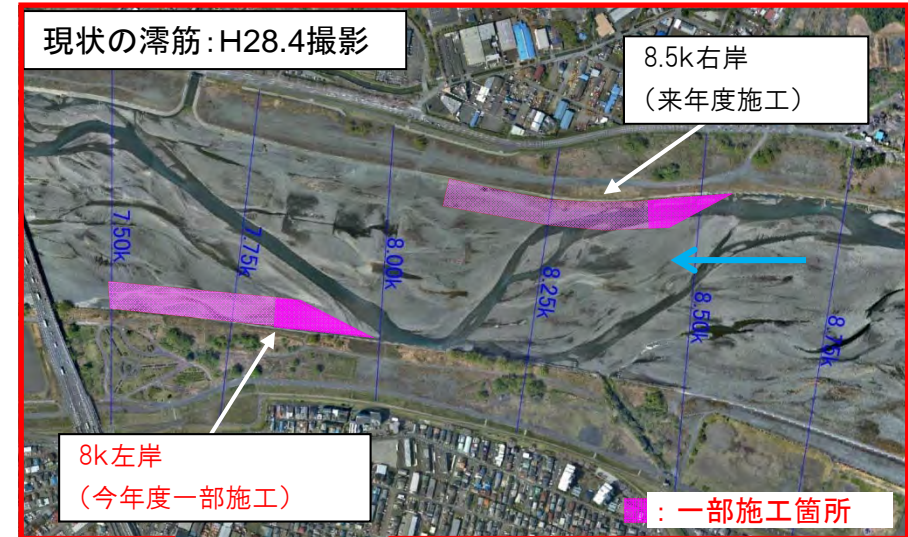
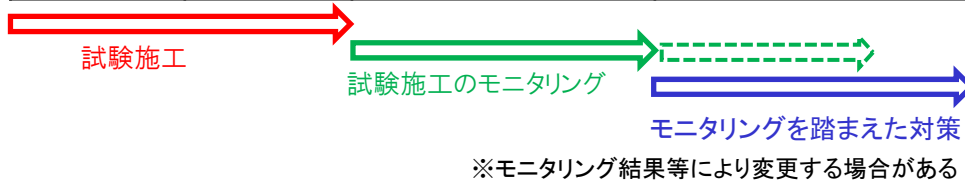


(1) 試験施工のスケジュール

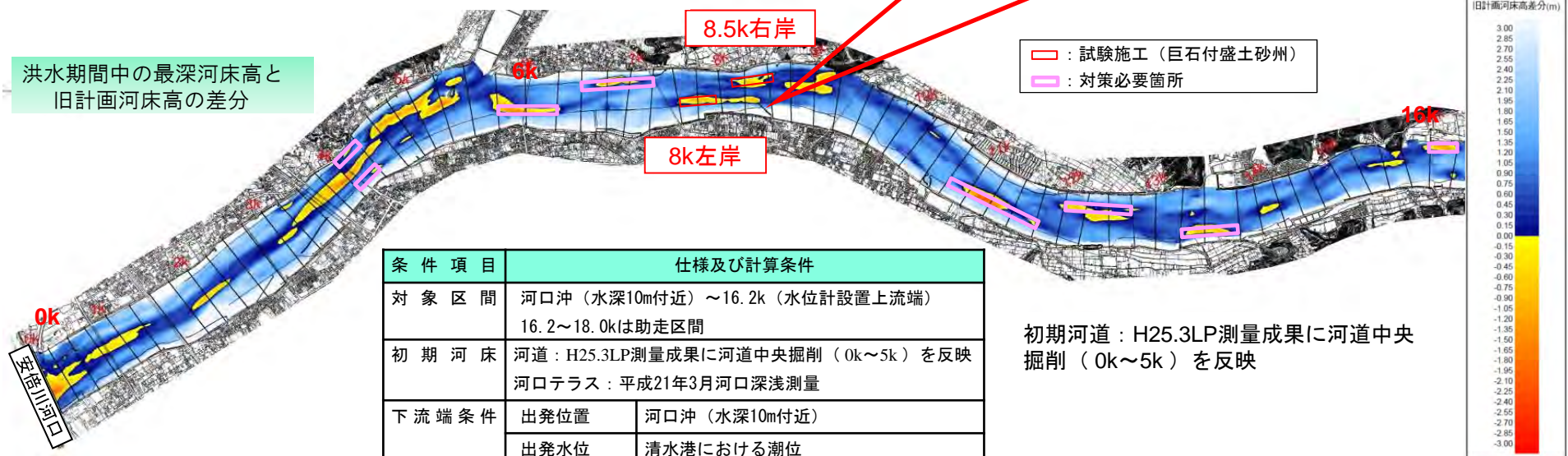
河岸防護対策が必要な箇所のうち平成28、29年度に2箇所を巨石付き盛土砂州の試験施工を実施予定である。この2箇所は、現況においても水衝部となっており、局所洗掘されやすい箇所である。今年度は、8k左岸付近、平成29年度は、8.5k右岸付近の一部を施工する。今後はモニタリングにより施設の設計条件や周辺への影響を確認しながら本格的な対策方針の検討をする。

◆今後の施工スケジュール

H28	H29	H30	H31以降
8k左岸 一部の 試験施工 を実施	8.5k右岸 一部の 試験施工 を実施	試験施工箇所のモニ タリングを実施 今後の対策方針を検 討	モニタリングを踏ま えた対策を実施

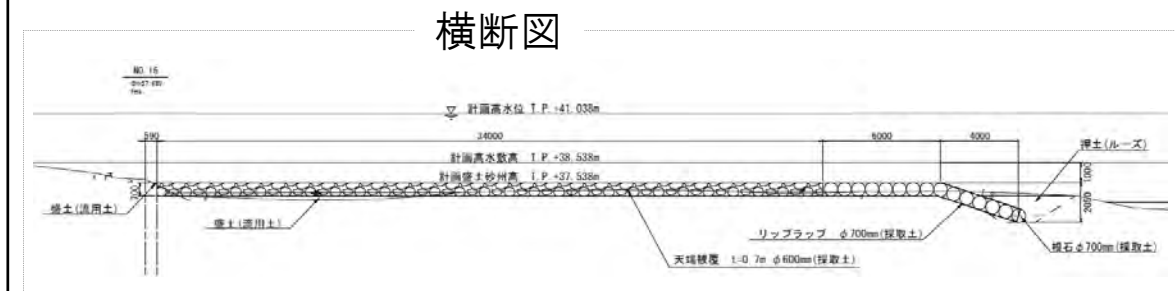
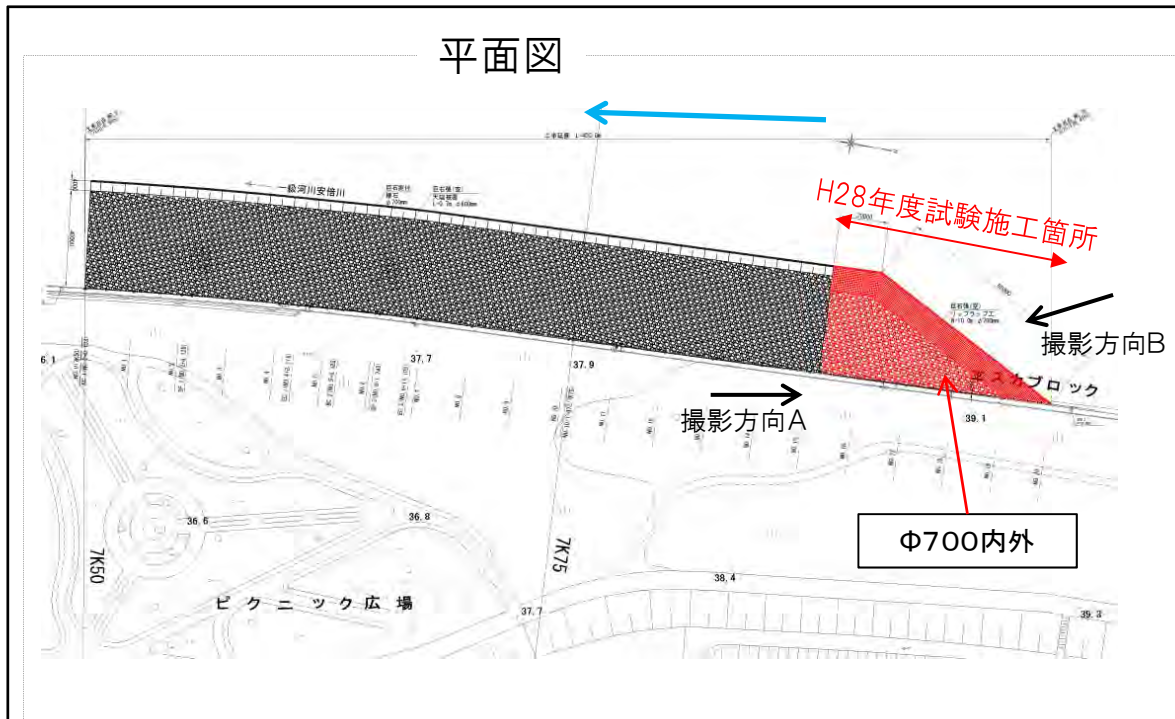


平面二次元河床変動計算による  
局所洗掘の発生個所と巨石付盛土砂州の施工予定箇所



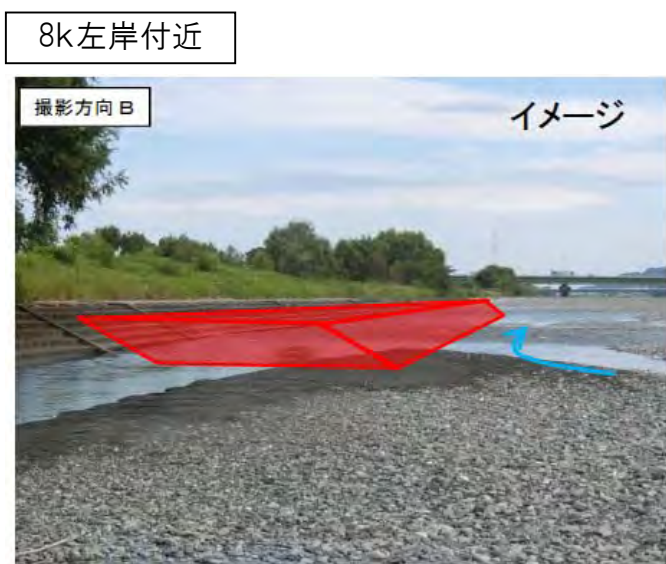
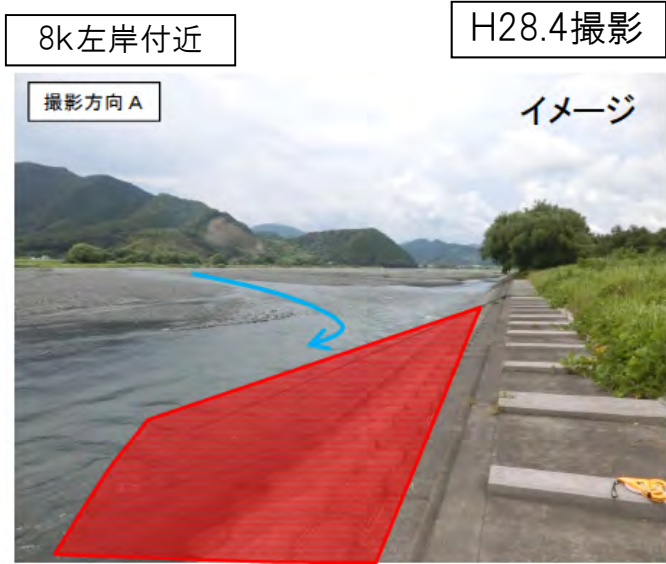
## (2) 平成28年度施工箇所の概要

今年度の試験施工の8k左岸付近は、巨石付き盛土砂州の一部(先端部分)の施工予定である。巨石は、 $\Phi 700$ 内外を使用する予定である。



整備計画流量流下時の移動限界粒径より  
 $\Phi 700$ mmの巨石を採用

### ◆施工イメージ図





(3) 今後のモニタリング

試験施工後のモニタリングにより、施設の設計条件や周辺への影響を確認し今後の本格的な対策にフィードバックする。

試験施工のモニタリング

目的		項目	手法	場所	時期・頻度
効果・影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨石付き盛土砂州の整備による、河岸の侵食及び洗掘の軽減機能の把握</li> <li>・巨石付き盛土砂州の整備による、施設近傍の洗掘等の影響の把握</li> </ul>	巨石付き盛土砂州近傍の河道形状	目視・定点写真	巨石付き盛土砂州施工箇所 : 左岸8.0k、右岸8.5k 対岸等の注意箇所 : 右岸7.25k、左岸6.25k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨石付き盛土砂州設置後</li> <li>・大規模出水前後</li> </ul>
			航空写真	6.0k~8.5k (藁科川合流点~巨石付き盛土砂州施工箇所)	LP測量の結果を活用 (LP測量の実施状況: 年1回+大規模出水後)
機能の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨石付き盛土砂州の機能が十分に維持されているかの確認</li> </ul>	巨石付き盛土砂州の形状	LP測量	巨石付き盛土砂州上に3測線 (約40mピッチ、幅80m程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回+大規模出水後</li> <li>※盛土砂州が水につかっていると不要</li> </ul>
			目視・定点写真	巨石付き盛土砂州施工箇所 : 左岸8.0k、右岸8.5k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨石付き盛土砂州設置後</li> <li>・年1回+大規模出水後</li> </ul>
現象の把握 ・ 要因分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨石付き盛土砂州による全体的な河床変動状況の把握</li> <li>・巨石付き盛土砂州近傍の水面形の把握</li> <li>・盛土材(巨石)の流出状況の把握</li> </ul>	河床高	LP測量	6.0k~8.5k (藁科川合流点~巨石付き盛土砂州施工箇所)	LP測量の結果を活用 (LP測量の実施状況: 年1回+大規模出水後)
		水位	簡易水位計	既設の水位計を有効活用 (約1.0kmピッチ)	・出水時
		盛土材(巨石)	盛土材の番号付け	左岸8.0k、右岸8.5kそれぞれの盛土材(各100個程度)に番号付けを実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回+大規模出水後</li> <li>※番号付け時に設置状況を撮影しておき、残留・流出状況を確認</li> </ul>

横断測量、盛土材(巨石)の番号付け (8k左岸付近)

